



パレモ信条

- 一. 私達はお客様の声を大切にします
- 一. 私達は明るく楽しく前向きに主体性ある職場をつくれます
- 一. 私達は魅力あふれるブランドを提案します
- 一. 私達は自らの努力で高い目標に果敢に挑戦します
- 一. 私達は仲間と感動を通して輝かしい明日を創造します

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成 20 年 2 月 15 日
登録番号 C 0 0 2 4

仕事と家庭の両立に配慮した取り組みを行なう愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

PALEMO CO., LTD.

第27期報告書
[2011.2.21.～2012.2.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



証券コード: 2778

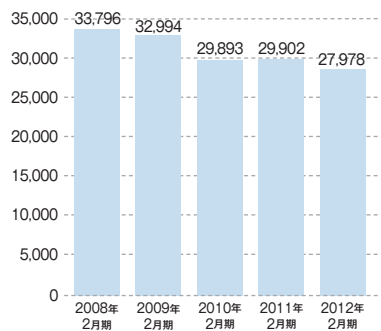
PALEMO という社名は、「PAL (仲間)」と「EMOTION (感動)」の二つの言葉を合わせた造語であり、「感性豊かな仲間たちとともに人生、仕事の感動を味わう」という思いが込められています。

INDEX

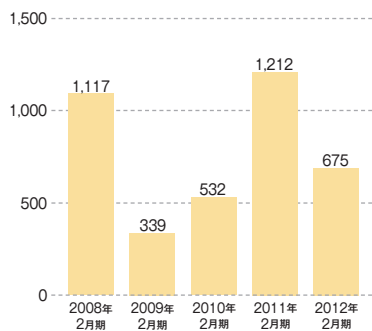
株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
アパレル事業の概況	5
雑貨事業の概況	6
店舗の概況	7
財務諸表	8
株式情報	9
会社情報	10

経営成績

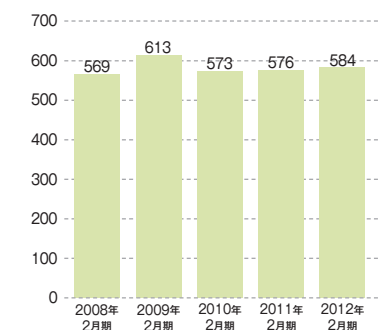
売上高 (百万円)



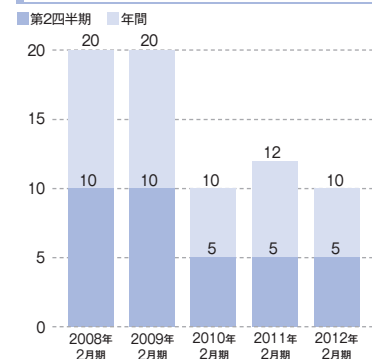
経常利益 (百万円)



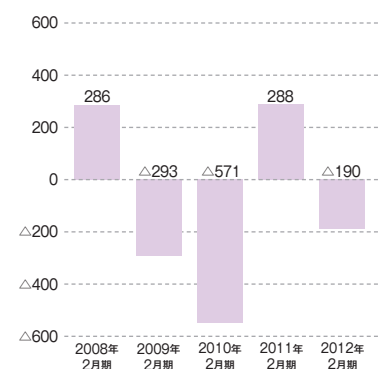
期末店舗数 (店舗)



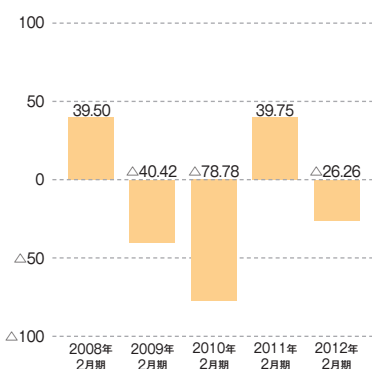
1株当り配当金 (円)



当期純利益 (損失) (百万円)



1株当り当期純利益 (損失) (円)



株主の皆様へ

新生パレモ創業

新たな仲間と共に新たな成長を目指します

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第27期報告書をお届けするにあたりまして、謹んでご挨拶申し上げます。

このたび当社と株式会社鈴丹は、本年2月21日に合併いたしました。これまで両社に対しまして、ご支援ならびにご厚情賜りました皆様方に深謝申し上げます。この合併により、両社が積み重ねてきた経営資源とノウハウを統合し、更なる企業基盤の強化を図ると共に、新たな成長を目指す所存でございますので、今後とも宜しく願いいたします。

さて、この第27期におけるわが国経済は、東日本大震災により経済活動が大きく影響を受けました。その後、緩やかな持ち直しの動きも見られましたが、欧州の財政問題を背景に景気の下ぶれリスクが懸念され、先行き不透明な状況で推移しました。

当社が属する専門店業界は、少子高齢化による市場変化ならびに新設商業施設の減少などによりまして、寡占化された競合環境が更に進み、優勝劣敗の時代となってまいりました。

このような環境の中、当社は「永続的安定成長」を目指し、「多核化ブランド戦略」を基本といたしまして、「主力事業の強化」、「都心、モール型出店強化」ならびに「新規事業の育成・拡大」に取り組んでまいりました。しかしながら、震災による減収を補うことができず、通期におきましては「減収減益」という厳しい結

果になりましたことを謹んでご報告申し上げます。

第28期におきましては、「新生パレモ」の人財の活力基盤の創造に注力すると同時に、「既存店の収益性の向上」ならびに「成長ブランドに積極的投資」することによりまして、新たな成長を目指してまいります。

そして、今後も企業価値ならびに株主価値の向上に向け、役員をはじめ社員一同、専心努力する所存でございます。また企業統治ならびに内部統制を重視しまして、企業の質的向上にも引き続き努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、相変わらぬご支援、ご高配を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

指針

正しい経営

安定成長

ローコスト経営

人財経営

代表取締役社長

小田保則



～Doing it～

仲間と挑戦「挑戦⇒成長⇒感動」

合併初年度である第28期は、「新生パレモ創業」の年と位置づけ、新たな仲間と共に新たな成長に挑戦する年といたします。パレモの力は仲間の力です。そして成長こそが感動の原点です。仲間と共に感動を分かち合える会社を目指してまいります。



Q1 当期の業績および取り組みについてお聞かせください。

減収減益

当期の業績は、売上高279億78百万円（前年同期比93.6%）、経常利益6億75百万円（前年同期比55.7%）となりました。

既存店売上高前年同期比は第1四半期が84.8%、第2四半期が94.8%、第3四半期が94.4%そして第4四半期が96.0%となり、通期で92.3%という結果となりました。この既存店の減収が当期の業績の要因であります。震災の影響が大きかったことは確かですが、その後の市場変化に対する機敏な対応に不備があったものと反省しております。第28期は事業組織をディビジョン制に変更して、各ブランドの機動力を強化すると同時に、商品、営業および販促を一体的に運営できるようにして収益性の向上を図ってまいります。

また、当期純利益におきましては、特殊要因であります資産除去債務会計基準の適用にともなう店舗撤去費用3億42百万円ならびに災害による損失92百万円を含む特別損失5億86百万円を計上したことによりまして、純損失1億90百万円（前期純利益2億88百万円）となりました。

アパレル事業におきましては、ドメイン商品の強化ならびに販促やVP（ビジュアルプレゼンテーション）の変革に取り組みました。VPにおきましては、新設店ならびに改装店において確立できつつあります。今後は既存店の改装を積極的に進めることによりその変更を進めてまいります。また、「RecHerie」「DOSCH」の商品力強化に取り組み、新設店ならびに既存店の成果も出てまいりました。「Li Meduo」においては、ブランド力の強化が順調に進んできております。

雑貨事業におきましては、ドメイン商品の更なる強化を中心としたMD（マーチャндаイジング）力の精度向上が進み、既存店の収益が安定的に向上してまいりました。特に「INCENSE」の既存店売上の伸びが高く、今後は出店拡大を図っていきたいと考えております。新設店におきましては「illusie300」が店舗拡大にともない商品力も強化され、更に出店も加速しました。また、「木糸土」のセカンドブランド「Hare no hi（ハレノヒ）」をアパレルミックスブランドとしてオープンしております。

このように各ブランドにおいて、改善・改革の手を休めることなく、成長に向けて取り組んでまいりましたが、これらと並行しまして、今後は収益の基盤である「既存店の収益性の向上」に向けた取り組みを強化してまいります。

Q2 合併後の方針および戦略についてお聞かせください。

既存店の収益性向上

都心ブランドの成長拡大

商品企画開発力の創造

専門店業界の今後は、少子化が進む中で、これまでのように大型SC（ショッピングセンター）が次々と新設されるような環境ではなくなりました。そうした中で外資専門店も拡大してきており、正に優勝劣敗の時代と言えます。このような環境下で更なる成長を目指すには、企業としての相応の規模、つまり企業基盤の拡大および強化が必要であるという認識の下、株式会社鈴丹との合併を決めさせていただきました。

今後は、両社の持つ安定収益基盤を基に、都心、大型SCに成長ブランドを育成拡大することにより、成長を目指してまいります。

そこで、まず重要なのが既存店の収益性の安定および向上です。合併を機に、これまでの両社の競争志向から共存により、その収益性の向上を目指していきます。そのために店舗毎にブランドの再編集をしてまいります。更には、マーケット変化に合わせたMDの変更ならびにVP変更を含む既存店への活性化投資にも注力していきます。

● 当期の業績の状況

		（単位：%）
売上高前年同期比	93.6	
経常利益前年同期比	55.7	
既存店売上高前年同期比	92.3	
売上総利益率（前年同期比増減）	△0.2	
営業費売上比率（前年同期比増減）	+1.4	

都心ブランドにおきましては、これまでも種をまき、そのブランド力強化に継続的に取り組んでまいりました。今後もアパレル事業の「RecHerie」「Li Meduo」「Visalia」「DOSCH」「SI2C」、雑貨事業の「木糸土」「Hare no hi」「illusie300」の中の幾つかが50億円から100億円ブランドに成長できるよう、ディビジョン体制を基盤に取り組んでまいります。

合併後の「GAL FIT」「SUZUTAN」ブランドの店舗数は約500店舗となります。この規模のメリットを活かして、独自の商品企画開発力の創造に向けて、両社の人財を活用して取り組んでまいります。

日本市場が今後成長しない中、当社が今後成長を果たしていくためには、常に、3つのシーズ（種）、つまり「今日：郊外主力事業」「明日：都心ブランド事業」「将来：中国事業」を並行して取り組んでいくことが重要と思います。また、郊外と都心という両足の事業基盤で立ち、これを磨き続けていくことが肝要と考えています。

最後に、合併の準備はシステムの統合や組織化など順調に進みました。「背番号なし」で皆が仲間として新生パレモはスタートしています。専門店の力の源泉は「人財」「現場の活力」であると思います。これを大事にして、成長に向けて取り組んでまいります。

● 合併後の部門別の売上状況（2012年2月期実績）

				（単位：百万円、%）	
	売上高	構成比		売上高	構成比
ギャルフィット	17,223	40.6	シーベレット	5,990	14.1
スズタン	10,613	25.0	イルーシー 300	1,234	2.9
SI2C	3,120	7.3	インセンス	1,189	2.8
ライムストーン	1,357	3.2	木糸土	280	0.7
ヴィサリア	370	0.9	雑貨事業合計	8,693	20.5
アパレル事業合計	32,684	77.0	その他	1,055	2.5
			全社合計	42,434	100.0

アパレル事業の概況

General Condition of Apparel Business

●ギャルフィット部門



アパレル事業の主力であるギャルフィット部門は、当社の基幹事業であります。期中における主な出店は「DOSCH」が7店舗、「Recherie」が4店舗、そして「GAL FIT」が4店舗でありました。都心、モール型ブランドの「Recherie」「DOSCH」は独自の商品力の強化によりブランド力の向上を図り出店拡大してまいります。

●ライムストーン部門



ライムストーン部門の「Li Meduo」は都心、モール型ブランドであり、期中に1店舗出店しております。店舗の内装ならびにVPを一新し、MD力の強化とともにブランド力の向上が図られました。今後は25～35歳の大人の女性を対象にしたブランドとして、出店拡大してまいります。

リジェイ



大きいサイズを展開する「Re-J」は、期中に4店舗出店し、当期末の単独店舗数は46店舗となりました。40坪クラスに店舗規模を拡大して、品揃えを強化することにより顧客化を進めています。今後もネット通販と合わせて、更なる認知度の向上ならびに出店拡大を図ってまいります。

●ヴィサリア部門



「Visalia」は期中に3店舗出店し、当期末店舗数は5店舗となりました。本年2月には、フラッグショップである渋谷109店を全面改装しまして、ブランドイメージの強化を図り、好調に推移しています。今後も当社の都心ブランドとして好立地に出店拡大することにより認知度の向上を図ってまいります。

雑貨事業の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business

●シーベレット部門



雑貨事業の主力であるシーベレット部門は、主力商品の強化ならびに店頭在庫の鮮度管理を推進した結果、前期に引き続き既存店売上高が好調に推移しました。「Siebelet」の期中の出店は1店舗であり、今後は営業力の強化とともに、バラエティ雑貨としての独自性に磨きをかけ、収益性の更なる向上ならびに出店拡大を図ってまいります。

●インセンス部門



「INCENSE」は10～30代を対象とするレディース、メンズバッグの専門店です。当期は独自性ある主力商品の構築に取り組んだ結果、既存店が好調に推移し、全社の部門の中で一番の伸長を果たしています。今後は更なる商品の差別化を図ると同時に、高級感あるVPや接客力を強化し、出店拡大してまいります。

イルーシー300



「illusive300」は期中に13店舗出店し、当期末店舗数は28店舗となりました。生活雑貨を中心とした豊富な品揃えと、300円均一というスタイルで認知度も向上しており出店依頼の多いブランドです。今後は店舗数の増加とともに商品の独自性を強化し、店装イメージも新しくしながら、更なる出店拡大をしてまいります。

●木糸土部門



「木糸土」は期中に2店舗出店し、当期末店舗数は5店舗となりました。その内の1店舗を、「木糸土」のセカンドブランドである「Hare no hi (ハレノヒ)」として前年の12月に立ち上げています。大人の女性に「木糸土」の良さをアパレルとのMIXで提案しており、好評を得ています。出店依頼も多く、「木糸土」とともに都心に店舗拡大をしてまいります。

店舗の概況

General Condition of Store

●スクラップ&ビルドの状況

出店40店舗 退店32店舗

当期も安定的にスクラップ&ビルドを実施した結果、期中の店舗数の純増は8店舗、期末店舗数は584店舗となりました。出店40店舗の内、都心、モール立地に34店舗出店した結果、当社の都心、モール立地における割合は前年同期の29.7%から33.9%まで上昇しています。

店舗投資額は646百万円、新規出店1店舗あたりの投資額は16百万円となりました。今後もキャッシュ・フローに留意しながら都心、モール型SCを中心に出店していく予定です。

●ブランド別出退店の状況

「illusie300」「DOSCH」「RecHerie」が出店拡大

当期のブランド別出店の内訳は、アパレル事業におきましては都心、モール型ブランドの「DOSCH」7店舗、「RecHerie」4店舗をはじめとしまして、都心型ブランドの「Visalia」3店舗などを出店いたしました。

雑貨事業におきましては「illusie300」13店舗をはじめとしまして、都心型ブランドの「木糸土」「Hare no hi（ハレノヒ）」をそれぞれ1店舗出店いたしました。

また、郊外型のSCに「GAL FIT」を4店舗、「Siebelet」を1店舗出店しております。

郊外型のSCへの出店に対する競合環境は緩和されており、今後も安定的な出店を図ってまいります。

DALEMO

●ブランドリスト(合併後)

	都心型	モール型	GMS型
アパレル事業(8)			
			
雑貨事業(5)			

●スクラップ&ビルドの状況

	前期	当期
出店	38店舗	40店舗
退店	35店舗	32店舗
純増	3店舗	8店舗
期末店舗	576店舗	584店舗
店舗投資額	670百万円	646百万円

●ブランド別出退店の状況

	(単位:店舗)				
	出店	退店	業態転換	純増(△減)	当期末店舗数
ギャルフィット部門	19	12	3	10	337
RecHerie	4	0	2	6	8
DOSCH	7	0	4	11	39
Re-J・Jinnee	4	1	0	3	46
GAL FIT 他	4	11	△3	△10	244
ライムストーン部門	1	2	△1	△2	28
Li Meduo	1	0	△1	0	11
LIME STONE 他	0	2	0	△2	17
ヴィサリア部門	3	0	0	3	5
アパレル事業合計	23	14	2	11	370
シーベレット部門	14	6	0	8	135
illusie300	13	0	0	13	28
Siebelet 他	1	6	0	△5	107
インセンス部門	0	4	0	△4	27
木糸土部門	2	1	0	1	5
雑貨事業合計	16	11	0	5	167
複合店	1	7	△2	△8	47

財務諸表

Financial Statements

貸借対照表			(単位:百万円)	
	当事業年度 (平成24年2月20日現在)	前事業年度 (平成23年2月20日現在)		
■資産の部				
流動資産	4,946	5,009		
固定資産	7,253	7,533		
有形固定資産	1,295	1,266		
無形固定資産	52	56		
投資その他の資産	5,905	6,210		
資産合計	12,199	12,542		
■負債の部				
流動負債	5,580	5,421		
固定負債	889	1,113		
負債合計	6,469	6,534		
■純資産の部				
株主資本	5,730	6,008		
資本金	1,229	1,229		
資本剰余金	1,203	1,203		
利益剰余金	3,305	3,583		
自己株式	△7	△7		
純資産合計	5,730	6,008		
負債及び純資産合計	12,199	12,542		

株主資本等変動計算書							(単位:百万円)	
当事業年度 (平成23年2月21日から 平成24年2月20日まで)	株主資本					純資産 合計		
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本合計			
平成23年2月20日残高	1,229	1,203	3,583	△7	6,008	6,008		
剰余金の配当			△87		△87	△87		
当期純損失			△190		△190	△190		
会計年度中の変動額合計			△277		△277	△277		
平成24年2月20日残高	1,229	1,203	3,305	△7	5,730	5,730		

POINT

- 資産除去債務会計基準の適用により、流動負債の資産除去債務が12百万円、固定負債の資産除去債務が3億77百万円計上されました。
前事業年度に固定負債として長期借入金が11億円ありましたが、当事業年度におきましては、流動負債に1年内返済予定長期借入金として6億円、固定負債に長期借入金として5億円計上されております。なお、前事業年度と同様、短期借入金はございません。
- 震災の影響もあり、当事業年度の売上高が279億78百万円(前年同期比△6.4%)と減少したことにより、営業利益は6億31百万円(前年同期比△46.0%)、経常利益は6億75百万円(前年同期比△44.3%)となりました。

損益計算書			(単位:百万円)	
	当事業年度 (平成23年2月21日から 平成24年2月20日まで)	前事業年度 (平成22年2月21日から 平成23年2月20日まで)		
② 売上高	27,978	29,902		
売上原価	13,100	13,919		
売上総利益	14,877	15,982		
販売費及び一般管理費	14,246	14,813		
② 営業利益	631	1,168		
営業外収益	66	69		
営業外費用	23	26		
② 経常利益	675	1,212		
特別利益	7	16		
③ 特別損失	586	419		
④ 税引前当期純利益	95	809		
法人税、住民税及び事業税	213	381		
法人税等調整額	72	139		
④ 当期純利益又は純損失(△)	△190	288		

キャッシュ・フロー計算書			(単位:百万円)	
	当事業年度 (平成23年2月21日から 平成24年2月20日まで)	前事業年度 (平成22年2月21日から 平成23年2月20日まで)		
⑤ 営業活動によるキャッシュ・フロー	455	1,598		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△170	△110		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△87	△1,072		
現金及び現金同等物の増加額	197	415		
現金及び現金同等物の期首残高	730	315		
現金及び現金同等物の期末残高	928	730		

- 特別損失は、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額として3億42百万円、災害による損失として92百万円等の計上により、5億86百万円となりました。
- 税引前当期純利益は黒字となったものの、住民税均等割等の負担が大きく、これにより当期純損失1億90百万円となりました。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益が95百万円であったものの、非資金項目である減価償却費3億50百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億42百万円、および売上債権の減少3億72百万円等の資金増加要因があり、これらが法人税等の支払額5億73百万円等の資金減少要因を上回ったことによるものであります。

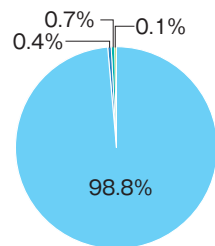
● 株式情報 (2012年2月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	7,260,000株
単元株式数	100株
株主数	3,100名

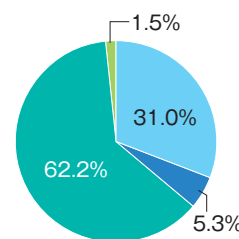
● 大株主 (2012年2月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ユニー株式会社	4,443	61.20
野村信託銀行株式会社 (投信口)	293	4.04
パレモ従業員持株会	220	3.04
個人株主A	173	2.39
BNP-PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG-JASDEC SECURITIES	70	0.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	60	0.83
サンラリー株式会社	50	0.68
個人株主B	40	0.55
HSBC - FUND SERVICES, SPARX ASSET MANAGEMENT CO LTD	31	0.42
個人株主C	27	0.37

● 株主構成 (2012年2月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	3,062名	98.8%
証券会社・金融機関	12名	0.4%
その他国内法人	21名	0.7%
外国法人・個人	5名	0.1%
合計	3,100名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	2,247,799株	31.0%
証券会社・金融機関	386,101株	5.3%
その他国内法人	4,518,200株	62.2%
外国法人・個人	107,900株	1.5%
合計	7,260,000株	100.0%

● 株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月20日 期末配当金 毎年2月20日 中間配当金 毎年8月20日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-176-417
公告方法	電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。
特別口座について
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。
特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

● 株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。



300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		5,000円相当の果物

● 会社概要 (2012年2月20日現在)

社名	株式会社 パレモ
設立	1984年11月22日
資本金	12億2,925万円
本社所在地	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
事業所	パレモ東京 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町12番20号 日本橋T&Dビル3階・4階 パレモ大阪事務所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目7番19号 第7新大阪ビル 8階
従業員数	2,612名 (ナショナル社員133名、エリア社員他2,479名)
事業内容	レディースアパレル、バラエティ雑貨、 バッグの専門店チェーン
ホームページ	http://www.palemo.co.jp/

● 役員 (2012年5月11日現在)

代表取締役社長	小田 保 則
専務取締役	吉 田 馨
専務取締役	松 井 理 記
常務取締役	永 井 隆 司
取締役	飯 田 務
取締役	江 里 口 直
取締役	手 塚 文 人
常勤監査役	黛 龍 二
監査役	伊 藤 章
監査役	中 村 弘

注:取締役のうち、手塚文人氏は社外取締役であります。
監査役のうち、伊藤 章、中村 弘の両氏は社外監査役であります。

● 沿革

1984年 11月	株式会社パレモ 設立(資本金1億円)
1985年 2月	株式会社パレモとして営業開始
1985年 7月	路面1号店 ギャルフィット原宿店オープン
1987年 3月	東京営業本部 開設
1988年 8月	POSシステムの導入
1992年 2月	増資 資本金2億円へ
1995年 2月	増資 資本金2億6,750万円へ
1996年 2月	額面株式5万円から50円へ変更
1998年 2月	シーベレット事業を営業譲受 増資 資本金2億8,145万円へ
2000年 8月	本社を愛知県稲沢市(現在地)へ移転
2001年 8月	大阪本部 開設
2003年 8月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年 7月	公募増資 資本金を12億2,925万円へ
2004年 12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し ジャスダック証券取引所に株式を上場
2005年 8月	インセンス事業を営業譲受
2006年 11月	木糸土1号店 小田急新宿ミロードにオープン
2006年 12月	リメディア1号店 モレラ岐阜店にオープン
2007年 4月	ドスチ1号店 アピタ千秋店にオープン
2007年 10月	Re-J1号店 イオンモール羽生店にオープン
2008年 1月	巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司 設立
2008年 6月	中国1号店 上海久光百貨店にオープン
2008年 6月	イルーシー300 1号店 サンテラスー宮店にオープン
2009年 6月	巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司 売却
2010年 2月	ヴィサリア1号店 渋谷109店にオープン
2010年 4月	大阪証券取引所JASDAQ市場に株式を上場
2010年 10月	大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
2010年 10月	リシェリエ1号店 ESTA札幌店にオープン
2011年 12月	ハレノヒ1号店 横浜ワールドポーターズ店にオープン
2012年 2月	株式会社鈴丹と合併